

APPENDIX 8

Appendix 8-1 Detail of Construction Schedule

Wuhan Tianhe Airport Construction Schedule (Detail 1)

ITEM	1990			1991			1992			1993			1994								
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
Procedure of National Approval																					
Request of Loan																					
Loan Agreement																					
Financing Preparation																					
Temporary Work																					
Construction Road																					
Supply of Electric Power and Water																					
Related Road Work																					
330day + 57day																					
Relocated Road																					
22day																					
Earth Work																					
8day																					
Pavement																					
14day																					
Airport Access Road																					
330day + 57day																					
Bridges																					
192day																					

Wuhan Tianhe Airport Construction Schedule (Detail 2)

ITEM	YEAR																																			
	1990			1991			1992			1993			1994																							
MONTH	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
No. 4+700 Substructure																																				
75day																																				
No. 4+700 Superstructure																																				
169day																																				
No. 6+900 Substructure																																				
59day																																				
No. 6+900 Superstructure																																				
169day																																				
No. 7+830 Substructure																																				
91day																																				
No. 7+830 Superstructure																																				
192day																																				
Box Culvert																																				
106day																																				
No. 0-180																																				
106day																																				
No. 1+930																																				
69day																																				
Pipe Culvert																																				
30day																																				
Earth Work																																				
116day																																				
Pavement																																				
58+57day																																				
Road																																				
58+30day																																				

Wuhan Tianhe Airport Construction Schedule (Detail 3)

ITEM	1990			1991			1992			1993			1994								
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
Shoulder 22day																					
Side Gutter 50day																					
Airport Civil Work 1. 217day																					
Earth Work 287day																					
Pavement of Airfield Facilities 752day																					
Runway 236day																					
Taxiway (1) , (2) 27day																					
Taxiway (3) , (4) , (6) 27day																					
Taxiway (3) , (5) 40day																					
Parallel Taxiway 123day																					
Taxiway (8) , (11) 30day																					
Taxiway (9) , (10) 29day																					
Apron 220day																					

Wuhan Tianhe Airport Construction Schedule (Detail 4)

ITEM	YEAR																																						
	1990			1991			1992			1993			1994																										
MONTH	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12						
Drainage Facilities																																							
50H + 241day																																							
Pipe Culvert																																							
241day																																							
U-Shaped Channel																																							
77day																																							
Trapezoidal Channel																																							
50day																																							
Terminal Facility Work																																							
131day																																							
Road																																							
27day																																							
Carpark																																							
15day																																							
Sidewalk																																							
15day																																							
Drain Channel																																							
44day																																							
Planting Work																																							
30day																																							
Turfing																																							
90day																																							
Perimeter Road																																							
27day																																							
Fencing																																							
30day																																							

Wuhan Tianhe Airport Construction Schedule (Detail 5)

ITEM	1990			1991			1992			1993			1994								
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
Building Work																					
Passenger Terminal Building (20months)																					
Cargo Terminal Building (8 months)																					
Hangar (20months)																					
G. S. E. Facility (6 months)																					
Airtraffic Control Facility (12months)																					
Rescue and Fire-fighting Facility (6 months)																					
Related Buildings (12months)																					
Housing in Wuhan City (12months)																					
Ticketing Office (12months)																					

Wuhan Tianhe Airport Construction Schedule (Detail 7)

ITEM	1990			1991			1992			1993			1994					
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
Related Facility Works																		
Water Supply Facility																		
Sewage Treatment Facility																		
Trash Disposal Facility																		
Heating Facility																		
Aircraft Fuel Facility																		
(1) Oil Terminal																		
(2) Airport Fueling Facility																		
L. P. G. Facility																		
Railway Facility																		

APPENDIX 9

中華人民共和國
武漢天河空港建設計畫調查
協議議事錄
(着手報告書)

日本国 國際協力事業団
中華人民共和國 中国民用航空局

日本国国際協力事業団と中華人民共和国民用航空局との間で、1988年8月3日に締結された武漢天河空港建設計画調査に係る実施細則に基づき、日本国国際協力事業団の調査団は、1988年12月7日から中華人民共和国を訪問し、本件調査の着手報告書について中国民用航空局及び武漢市人民政府と友好的かつ真摯な一連の協議を行った。

中国側は、調査団の提出した着手報告書の内容を基本的に了承した。

日中双方は、同報告書の内容に係る協議を行い、以下の事項を確認した。

1. 1988年8月3日付け本件事前調査協議議事録8に関しては、本件調査開始前の日中双方の合意に基づき、本件調査期間中に、日本側から中国側に提出されるすべての報告書（着手報告書、中間報告書、最終報告書案、最終報告書）は、英語で作成される。
2. 中国側は、調査団の各団員の専門分野に対応する専門家及び作業事務室を武漢市にて日本側に提供することを了承した。
3. 日本側は、本件調査実施に必要なすべての資料（地形図、他空港の計画等）のすみやかな提供を要望し、中国側はこれを可能な限り実行する旨回答した。
4. 中国側は、本調査で策定する空港建設計画の検討に際しては、2本の独立の平行滑走路を有する超長期的空港計画との関係について配慮するよう要望し、日本側はこれを了承した。
5. 中国側が既に決定している新空港予定地に関しては、日本側はフィージビリティ調査の目的に沿って、決定されるに至った経緯及び資料を検討し、必要に応じて現地踏査等を実施してその妥当性を評価する。
6. 中国側が既に決定している新空港の滑走路方位及び標点に関しては、日本側は現地の実際の状況について十分な調査を行い、日中双方が十分に協議して、その妥当性をICAO等の国際基準に基づいて検討し、決定する。
7. 中国側より、武漢南湖空港に設置されている二次監視レーダー (Secondary Surveillance Radar) は、新空港に移設しない計画である旨の説明があり、日本側はこれを理解した。
8. 中国側より、第1次現地調査以降の気象観測の継続実施及びこれに係る観測機器の供与について強い要望があり、日本側は中国側の要望を関係機関に伝える旨回答した。

この協議議事録は、日本語及び中国語で作成し、いずれも同等の効力を有するものとして、下記の二者の署名により確認されるものとする。

1988年12月14日

日本国
国際協力事業団
調査団団長

森口 拓

森 口 拓

中華人民共和国
中国民用航空局
計画司副司長

王道

王 道

日本側協議参加者名簿

作業監理委員会

委員 石谷 弘

委員 矢島 道夫

国際協力事業団社会開発協力部開発調査第一課

課長代理 中川 和夫

国際協力事業団中華人民共和国事務所

所長 田口 定則

所員 鈴木 有津子

調査団

団長 森口 拓

団員 蛎崎 広義

団員 小崎 弘二

団員 菅野 仁

団員 青柳 宏平

団員 金谷 國弘

団員 三浦 茂典

団員 山田 直徳

団員 吉武 百合

中 方 参 加 人 员

中国民用航空局计划司副司长	王 道
中国民用航空局修建司工程师	周谋进
中国民用航空局计划司主任科员	朱丽春
中国民用航空局国际司翻译	谭作成
中国民航工程咨询公司副总工程师	魏绮华
中国民航广州管理局总工程师	钱仁杰
中国民航湖北省局工程师	唐绍光
武汉市计委交通处副处长	关有庆

中华人民共和国
武汉天河民用机场建设计划调查
会谈纪要
(初期报告)

中华人民共和国 中国民用航空局
日本国国际协力事业团

日本国国际协力事业团调查团根据一九八八年八月三日由中华人民共和国民用航空局和日本国际协力事业团签定的武汉天河民用机场建设计划调查的实施细则，于一九八八年十二月七日始访问了中国，就实施该项调查的初期书面报告与中国民用航空局和武汉市人民政府举行了诚挚友好的会谈。

中方原则上同意调查团提交的初期书面报告。

中日双方就该书面报告的内容举行了会谈，确认如下：

1、有关一九八八年八月三日签署的会谈纪要第八条，中日双方已达成协议，同意就本项调查日方向中方提供的书面报告(初期、中期、终期草案、终期书面报告)均用英文编制。

2、中方同意配合日方在武汉市安排对口专家，提供工作间。

3、日方要求中方及时提供为实施本项调查所需的全部资料(地形图、其它机场计划等)中方表示尽

最大可能。

4、中方要求，研究本项调查所制定的机场建设计划时，要考虑两条远距平行跑道的机场的长远规划。日方对此表示同意。

5、关于中方已确定的新机场场址，日方将根据可行性研究的目的，将研究决定场址的过程和有关资料。必要时将进行现场踏勘。对场址进行可行性评估。

6、日方对中方确定的新机场跑道的方位及座标要对现场的实际情况进行充分的调查，并经中日双方充分地讨论，按国际民航组织等国际标准研究、决定其可行性。

7、中方介绍现武汉南湖机场的二次监视雷达不再迁至新机场。对此，日方表示理解。

8、中方强烈要求第一次现场调查后，将继续实施气象观测并要求提供该观测所需的设备、仪器。对此，日方表示将向有关单位转告。

本会谈纪要分别用中文和日文写成。两种文本具

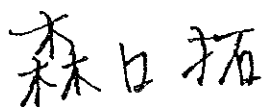
有同等效力。由下述双方代表签字生效。

一九八八年十二月十四日

中华人民共和国
中国民用航空局
计划司副司长



日 本 国
国际协力事业团
调查团团长



中 方 参 加 人 员

中国民用航空局计划司副司长	王 道
中国民用航空局修建司工程师	周谋进
中国民用航空局计划司主任科员	朱丽春
中国民用航空局国际司翻译	谭作成
中国民航工程咨询公司副总工程师	魏绮华
中国民航广州管理局总工程师	钱仁杰
中国民航湖北省局工程师	唐绍光
武汉市计委交通处副处长	关有庆

日本側協議参加者名簿

作業監理委員会

委 員 石 谷 弘

委 員 矢 島 道 夫

国際協力事業団社会開発協力部開発調査第一課

課長代理 中 川 和 夫

国際協力事業団中華人民共和国事務所

所 長 田 口 定 則

所 員 鈴 木 有 津 子

調査団

団 長 森 口 拓

団 員 蛭 崎 広 義

団 員 小 崎 弘 二

団 員 菅 野 仁

団 員 青 柳 宏 平

団 員 金 谷 國 弘

団 員 三 浦 茂 典

団 員 山 田 直 徳

団 員 吉 武 百 合

中華人民共和國
武漢天河空港建設計畫調查
協議議事錄

1989年2月17日

日本国 國際協力事業団

中華人民共和國 中國民用航空局

日本国国際協力事業団と中華人民共和国民用航空局との間で、1988年8月3日に締結された武漢天河空港建設計画調査に係る実施細則に基づき、日本国国際協力事業団の調査団は、1988年12月7日から中華人民共和国を訪問し、1988年12月14日に日中双方が確認した協議議事録及び中国側が了承した本件調査の着手報告書に則り、第1次現地調査を実施した。

日中双方は、第1次現地調査の成果及び今後の調査方針に係る協議を行い、以下の事項を確認した。

1. 日本側調査団は、第1次国内調査に必要な殆どの資料を中国側から提供された。

ただし、黄陂測候所の気象データ（風向、風速）の入手及び天河候補地における視程観測の継続実施の必要性については、調査団は本件調査に係る作業監理委員とも協議、検討のうえ、中国側にその結果を回答する。

2. 日中双方は、本計画策定に係る基本的諸条件につき原則的に合意した。ただし、中国側は次の3項目が本件調査の範囲に含まれることを強く要望し、調査団はこれを帰国後、日本側関係機関に伝える旨回答した。

- (1) 武漢市内における空港職員住宅建設計画
- (2) 新漢口駅付近の航空券発売所建設計画
- (3) 岱黄道路計画ルート上の府河橋建設計画

この協議議事録は、日本語及び中国語で作成し、いずれも同等の効力を有するものとして、下記の二者の署名により確認されるものとする。

1989年2月17日

日本国
国際協力事業団
調査団団長

中華人民共和国
中国民用航空局
計画司副司長

森口拓

王道

森口拓

王道

日本側協議参加者名簿

国際協力事業団中華人民共和国事務所

副 所 長 松 谷 広 志

調査団

団 長 森 口 拓

団 員 蛭 崎 広 義

団 員 小 崎 弘 二

団 員 菅 野 仁

団 員 青 柳 宏 平

団 員 金 谷 國 弘

団 員 吉 武 百 合

参加会谈中方名单

王 道	民航局计划司副司长
庄 良	民航局航行司总工程师
金焕章	民航局航行司高级顾问
魏绮华	民航机场设计院总工程师
冯克鑫	民航机场设计院高级工程师
夏维康	民航机场设计院高级工程师
周谋进	民航局修建司高级工程师
莫银福	民航局计划司处长
唐绍光	民航湖北省局高级工程师
刘万明	民航局计划司
范 洪	翻译

中 华 人 民 共 和 国
武 汉 天 河 民 用 机 场 建 设 计 划 调 查

会 谈 纪 要

一 九 八 九 年 二 月 十 七 日

中 华 人 民 共 和 国 中 国 民 用 航 空 局
日 本 国 国 际 协 力 事 业 团

根据中华人民共和国民用航空局和日本国国际协力事业团于1988年8月3日签定的武汉天河机场建设计划调查的实施细则和1988年12月7日,日本国国际协力事业团访问中国时,于1988年12月14日中日双方共同确认的会谈纪要以及中国方面确认的本项调查的初期书面报告书,日本国国际协力事业团调查团进行了第一次现场调查。

中日双方对于第一次现场调查的成果以及今后的调查方针进行了会谈,并就有关事项确认如下:

1. 中方向日本调查团提供了第一次国内调查所必需的几乎所有的资料。

但是,关于黄陂县气象资料(风向、风速)的收集以及在天河机场场地能见度观测的继续实施的必要性,调查团同本项调查的作业监理委员等进行讨论协商,并将其结果答复中方。


2. 中日双方对于建设计划的各项基本条件,原则上同意。但是,中方强烈要求将下列3个项目包含进本调查范围之内。对此,调查团表示,回国后向日本国有关机关

- (1). 在武汉市内的机场职工住宅的建设计划。
- (2). 新汉口火车站附近的飞机票售票处的建设计划。
- (3). 在岱黄公路上的府河桥建设计划。

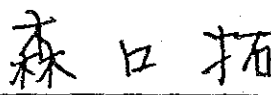
本会谈纪要分别用中文和日文写成，两种文本具有同等效力。由下列双方代表签字生效。

一九八九年二月十七日

中华人民共和国
中国民用航空局
计划司副司长



日 本 国
国际协力事业团
调查团团长



参加会谈中方名单

王道	民航局计划司副司长
庄良	民航局航行司总工程师
金焕章	民航局航行司高级顾问
魏绮华	民航机场设计院总工程师
冯克鑫	民航机场设计院高级工程师
夏维康	民航机场设计院高级工程师
周谋进	民航局修建司高级工程师
莫银福	民航局计划司处长
唐绍光	民航湖北省局高级工程师
刘万明	民航局计划司
范洪	翻译

日本側協議参加者名簿

国際協力事業団中華人民共和国事務所

副 所 長 松 谷 広 志

調査団

団 長 森 口 拓

団 員 蛭 崎 広 義

団 員 小 崎 弘 二

司 員 菅 野 仁

団 員 青 柳 宏 平

団 員 金 谷 國 弘

団 員 吉 武 百 合

中華人民共和國
武漢天河空港建設計畫調查
協議議事錄

1989年10月26日

日本国 國際協力事業団
中華人民共和國 中國民用航空局

日本国国際協力事業団と中華人民共和国民用航空局との間で、1988年8月3日に締結された武漢天河空港建設計画調査に係る実施細則に基づき、日本国国際協力事業団の調査団は、1989年10月11日から中華人民共和国を訪問し、本件調査の中間報告書について中国民用航空局及び武漢市人民政府と友好的かつ真摯な一連の協議を行った。

中国側は、調査団の提出した中間報告書の内容について基本的に了承した。日中双方は、同報告書の内容に係る協議を行い、以下の事項を確認した。

1. 2000年を目標年次とする計画

- 1) エプロン配置計画については、中国側から要望のあったリモートポジション方式に長期計画で対応し得るように、平行誘導路の中心線からエプロンの端までを57m拡張し、292mとする。エプロンの舗装面積は、ほぼ調査団の原案どおりとする。
- 2) ターミナル施設計画については、中国側の要望を考慮し、日中協議のうえ、建物間隔を修正する。
- 3) 貯油施設については、鉄道輸送してきた燃料を受け入れるためのタンクを横店鉄道駅に設置し、主たる貯蔵タンクは空港内に設置する。
- 4) 小型機(50席程度の旅客機)の出発・進入方式は、NDB使用とする。
- 5) 滑走路方位は、真方位で $N41^{\circ}26'E$ (磁差 $2^{\circ}24'$ 西偏)とする。

2. 2010年以降を目標年次とする超長期計画

- 1) 第一滑走路を400m延長する計画とする。
- 2) 第一滑走路と第二滑走路の間隔は、前項 1)のエプロン計画を考慮して1,650mとする。
- 3) アクセス道路については、中国側の要望を考慮し、空港南側から空港内を貫通し、武漢市内へ通じる道路計画を付け加えるものとする。
- 4) 超長期計画の中国側マスタープランは、最終報告書中に添付する。

更に日中双方は、1989年2月17日に双方が確認した協議議事録第2項に示された中国側の追加要求3項目について協議を行い、以下の事項を確認した。

1. 本件3項目については、以下のように処理されることとなった。

1) 武漢市内における空港職員住宅建設計画

日本側は、上記住宅は武漢天河空港の建設・運用のために必要不可欠なものであるという中国側の主張を理解し、日中双方は、本件をF/Sの対象に加えることに合意した。

2) 新漢口駅付近の航空券発売所建設計画

日本側は、上記航空券発売所の設置管理主体について質問し、中国側は、本件は空港当局が設置し、自ら運営するものであると述べた。この了解の下に、日中双方は、本件をF/Sの対象とすることに合意した。

3) 岱黄道路計画ルート上の府河橋建設計画

日本側は、本件は専ら武漢天河空港のために建設されるものではないので、F/Sの対象とすることはできないと主張した。これに対し中国側は、府河橋は武漢天河空港のアクセス上必要不可欠のものであること、中国側の内部において府河橋の建設費は空港建設主体が負担することが決定されたため、本件建設費は空港建設費の総額の中に算入される必要があること等を述べるとともに、本件建設費に係る収支は、空港の収支とは別の独立採算になると述べた。これらの点について更に協議を重ねた結果、日中双方は、本件についてのF/Sは実施しないこと並びにF/Sの最終報告書において空港建設費について記述する際に、これとは別に府河橋の建設費及び当該建設費を加えた武漢天河空港の建設に要する費用の総額についても記述することについて合意した。

2. 日中双方は、上記3項目に係る計画内容は、日本側が関与したものではなく、計画中の数値等は、全て中国側が提供したものをそのまま使用するものであること及び最終報告書においてその旨を記述することについて合意した。

この協議議事録は、日本語及び中国語で作成し、いずれも同等の効力を有するものとして、下記の二者の署名により確認されるものとする。

1989年10月26日

日本国
国際協力事業団
調査団団長

中華人民共和国
中国民用航空局
計画司副司長

森口拓

王道

森 口 拓

王 道

日本側協議参加者名簿

作業監理委員会

委員長 龜 甲 邦 敏

委員 矢 島 道 夫

国際協力事業団社会開発調査部社会開発調査第一課

職 員 稻 田 吏 香

調査団

団 長 森 口 拓

団 員 堀 崎 広 義

団 員 小 崎 弘 二

団 員 菅 野 仁

団 員 青 柳 宏 平

団 員 高 浜 森 彦

団 員 三 浦 茂 典

団 員 吉 武 百 合

参加会谈中方名单

王道	中国民用航空局计划司副司长
张优瑞	武汉市计委副主任
刘天凯	武汉市天河机场修建指挥部副主任
钱仁杰	民航广州管理局高级工程师
关有庆	武汉市计委交通处副处长
魏绮华	民航机场工程咨询公司副总工程师
朱丽春	民航局计划司经济师
刘美卿	武汉市规划局高级工程师
吴焕枝	民航湖北省局副局长
唐绍光	民航湖北省局高级工程师
李晓照	民航湖北省局办公室副主任
余少蓉	翻译

(五)

中华人民共和国
武汉天河民用机场建设计划调查
会谈纪要

1 9 8 9 年 1 0 月 2 6 日

中华人民共和国 **中国民用航空局**
日本国 **国际协力事业团**

根据中华人民共和国民用航空局和日本国国际协力事业团于1988年8月3日签定的武汉天河民用机场建设计划调查的实施细则,于1989年10月11日,日本国国际协力事业团调查团访问中国,对于本项调查的中期书面报告书,同中国民用航空局以及武汉市人民政府进行了友好真挚的协商。

中方基本上同意调查团提出的中期书面报告书的内容。

中日双方有关本报告书的内容进行了协商,并就有关事项确认如下:

一、2000年为目标的设计

(一)有关停机坪位置设计,考虑中方要求的远机位登机,在长远规划中能够适应,从平行滑行道的中线至停机坪的末端,扩展57M,总宽为292M。停机坪铺筑面积大致按调查团原来的方案。

(二)有关航站区的位置设计,考虑中方的要求,经过中日双方协商,将修改建筑物间隔。

(三)有关贮油库的建设位置,在横店火车站设置卸油站,主贮油库设在机场内。

(四)小型机(约50座位)的仪表飞行程序使用NDB。

(五)跑道方位确定为真方位 $N 41^{\circ} 26' E$ (磁差 $2^{\circ} 24'$ 西偏)。

(一)

二、以2010年以后为目标的长远规划

(一)第一跑道延长400M。

(二)第一跑道和第二跑道的间隔，考虑上述第一条第一点的停机坪计划，定为1650M。

(三)有关进场道路，考虑中方要求，加上机场内南北贯穿，从南头进入武汉市内的道路。

(四)中方的长远总体规划方案，在最终报告中附上。

另外，中日双方1989年2月17日确认的有关会谈纪要第二条所示的中方要求追加的三个项目进行协商，确认了如下事项。

一、有关三个项目作如下处理

(一)在武汉市内的机场职工住宅的建设计划。

日方理解中方认为上述住宅为武汉天河民用机场建设、营运方面所不可缺少的，双方一致同意将本项列入可行性研究的范围。

(二)新汉口火车站附近的飞机票售票处的建设计划

日方询问有关上述售票处的建设、管理主体。对此，中方回答本项目由机场当局建设、经营。在相互了解之后，双方一致同意将本项目列入可行性研究的范围。

(二)

白在岱黄公路上的府河桥建设计划。

日方认为，由于本项目不是专用于武汉天河民用机场的，因此不能作为可行性研究的对象。

对此，中方阐述府河桥是武汉天河民用机场的进场公路上不可缺少的。并且在中方内部决定府河桥工程费由机场建设项目负担，因此本项工程费必须列入机场总工程费中，同时说明关于本项目收支核算同机场的收支核算不相同，而采取单独核算。对于这一点进一步进行协商的结果，双方一致同意本项目可行性研究调查不进行，但在可行性研究最终报告书中记述机场工程费时，将府河桥工程费单独列出并计入武汉天河民用机场建设所需要工程费总额中。

二、中日双方对于上述三个项目的计划内容，日方未参与研究，为此，中日双方同意计划中的数值等资料，全由中方提供直接使用，并写在最终报告中。

本会谈纪要分别用中文和日文写成，两种文本具有同等的效力，由下列双方签名确认。

1989年10月26日

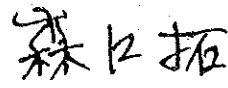
(三)

中华人民共和国
中国民用航空局
计划司副司长



王 道

日本国
国际协力事业团
调查团团长



森口 拓

(四)

参加会谈中方名单

王 道	中国民用航空局计划司副司长
张优瑞	武汉市计委副主任
刘天凯	武汉市天河机场修建指挥部副主任
钱仁杰	民航广州管理局高级工程师
关有庆	武汉市计委交通处副处长
魏绮华	民航机场工程咨询公司副总工程师
朱丽春	民航局计划司经济师
刘美卿	武汉市规划局高级工程师
吴焕枝	民航湖北省局副局长
唐绍光	民航湖北省局高级工程师
李晓照	民航湖北省局办公室副主任
余少蓉	翻译

(五)

日本側協議参加者名簿

作業監理委員会

委員長 亀 甲 邦 敏

委員 矢 島 道 夫

国際協力事業団社会開発調査部社会開発調査第一課

職 員 稲 田 吏 香

調査団

団 長 森 口 拓

団 員 堀 崎 広 義

団 員 小 崎 弘 二

団 員 菅 野 仁

団 員 青 柳 宏 平

団 員 高 浜 森 彦

団 員 三 浦 茂 典

団 員 吉 武 百 合

中華人民共和國
武漢天河空港建設計畫調查
協議議事錄

1990年2月16日

日本国 國際協力事業団
中華人民共和國 中國民用航空局

日本国国際協力事業団と中華人民共和国中国民用航空局との間で、1988年8月3日に締結された武漢天河空港建設計画調査に係る実施細則に基づき、日本国国際協力事業団の調査団は、1990年2月4日から中華人民共和国を訪問し、本件調査の最終報告書(案)について中国民用航空局及び武漢市人民政府と友好的かつ真摯な一連の説明協議を行った。

中国側は、調査団の提出した最終報告書(案)の内容について基本的に了承した。

日中双方は、同報告書の内容に係る協議を行い、以下の事項を確認した。

1. 中国側は、最終報告書(案)に示された3項目の結論について全面的に了承する。なお、併せて、結論の第4項目として、本計画の重要性、必要性、緊急性に関する記述を加えることとする。

2. 航空機騒音に関し、環境影響評価、環境対策及び騒音影響範囲の土地利用計画については、本計画の実施細則及び協議議事録における取決めに従い、最終報告書には記述しないこととする。

ただし、騒音問題は、所要の対策を講ずれば空港建設の障害にはならない旨を、最終報告書の第11章11.3の記述に加えることとする。

3. 建設工程につき、中国側は、空港建設工事完了時期を1992年12月末(1993年1月供用開始)とするよう要望した。日本側は、中国側の要望に応じることは困難であると回答した。日中双方は更に協議を行った結果、次のような合意に達した。

1) 外貨調達の開始時期を、予想し得る最も早い時期とすることとし、これに伴い航空保安施設に関する工事の着手時期を約6カ月早めることとする。

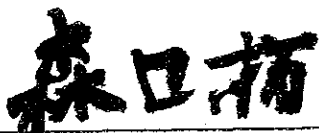
2) 上記1)以外の工程計画の修正は行わないこととする。ただし、碎石を主とする建設に必要な資材の供給量、これらの資材の輸送力、労働力・建設機械等の工事施工能力、工事の発注方法等に関し中国側が最大の努力をすれば、滑走路等の土木工事、旅客ターミナルビル等の建築工事等のいずれについても工期を短縮することは可能であり、その結果空港の建設工事を完了し開港させる時期を早めることも可能であると思われるので、その旨を最終報告書の第8章8.3の注として付記することとする。

4. 国内調達が可能であるが供給能力に限界があると考えられる資材(セメント、鋼材、木材)等については、その旨を第8章8.4に追記すると共に、第8-2表の内貨分の欄に注記することとする。
5. 第8章第8-2表のG.S.E.の欄の表記を、G.S.E./Rescue and Fire-fighting Vehiclesと修正することとする。
6. 中国側は、本案件を1990年度の円借款の対象として取り上げて欲しい旨強く要望した。日本側は、中国側の要望を日本の関係機関に伝達することとした。
7. 最終報告書(案)に関し、今回の協議において取り上げられた問題以外の誤記の訂正等の中国側の意見は、1990年3月5日までに国際協力事業団中華人民共和国事務所へ提出するものとする。

この協議議事録は、日本語及び中国語で作成し、いずれも同等の効力を有するものとして、下記の二者の署名により確認されるものとする。

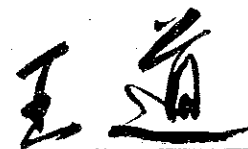
1990年2月16日

日本国
国際協力事業団
調査団団長



森 口 拓

中華人民共和國
中国民用航空局
計画司副司長



王 道

日本側協議参加者名簿

作業監理委員会

委員長 亀 甲 邦 敏

委員 林 清 實

国際協力事業団社会開発調査部社会開発調査第一課

職員 奈良輪 睦 美

国際協力事業団中華人民共和国事務所

所 長 田 口 定 則

副 所 長 松 谷 広 志

調査団

団 長 森 口 拓

団 員 藤 崎 広 義

団 員 菅 野 仁

団 員 青 柳 宏 平

団 員 吉 武 百 合

参加会谈中方名单

王道	中国民用航空局计划司副司长
张优瑞	武汉市计划委员会副主任
宋仁浩	武汉市计划委员会副主任
刘天凯	武汉天河机场建设指挥部副指挥长
钱仁杰	民航广州管理局高级工程师
关有庆	武汉市计委交通处副处长
魏绮华	民航机场工程咨询公司副总工程师
刘美卿	武汉市规划局高级工程师
唐绍光	民航湖北省局高级工程师
朱丽春	中国民用航空局计划司经济师
武伟	中国民用航空局国际司官员
余少蓉	翻译

中华人民共和国
武汉天河民用机场
建设计划调查
会谈纪要

一九九〇年二月十六日

中华人民共和国	中国民用航空局
日 本 国	国际协力事业团

根据中华人民共和国民用航空局和日本国国际协力事业团于1988年8月3日签订的武汉天河民用机场建设计划调查实施细则，日本国国际协力事业团调查团于1990年2月4日访问中国，就本项调查的最终书面报告书（草案），同中国民用航空局以及武汉市人民政府进行了友好真挚的协商。

中方基本上同意调查团提出的最终书面报告书（草案）的内容。

中日双方有关本报告书的内容进行了协商，并就有关事项确认如下：

一、中方完全同意最终报告书（草案）中的三项结论。另外作为第四项将增加有关本计划的重要性、必要性和紧迫性的内容。

二、关于航空噪音方面的环境影响评价、对策及噪音影响范围的土地利用计划将根据本计划的实施细则及会谈纪要进行，不在报告书中另写。但是，关于噪音问题采取所需对策将不妨碍机场建设之意添写在最终报告书的第11章11.3中。

三、中方要求机场建设工程工期在1992年12月末完成（1993年元月启用机场）。日方表示在满足中方要求上有困难。双方对此进行协商达成以下谅解。

（一）外汇使用开始时期以预测可能的最快时期为予定，为此有关导航设施工程开工期可提前约六个月。

（二）除上述（一）以外的工程计划不进行修改。但是以碎石为主的建设所需的材料、供应量及材料的运输能力、劳动力、机械施工能力和订货方法等方面尽最大努力的话，跑道等土木工程，候机楼等建设工程等均

缩短工期。因此，机场建设工程完工、机场启用的时间均可以提前，因此将在最终报告书的第八章中的8. 3的备注里附述。

四. 关于材料（水泥、钢材、木材）等，考虑到国内可以生产，但供应能力有限的情况，在第八章8. 4中追加记述。同时第8—2表中的内币栏里单独列出。

五. 第八章第8—2表的GSE栏修正为“GSE/Rescue and Fire-fighting Vehicles”。

六. 中方强烈要求将此工程作为1990年度的日元贷款项目。日方同意将上述要求转达日本有关方面。

七. 中方对最终报告书（草案）除本纪要外校正修改等的意见在1990年3月5日前提交国际协力事业团中华人民共和国事务所。

本会谈纪要分别用中文和日文写成两种文本，具有同等的效力由下列双方签名确认。

1990年2月16日

中华人民共和国
中国民用航空局
计划司 副司长

王道

王道

日 本 国
国际协力事业团
调查团 团长

森口拓

森口拓

参加会谈中方名单

王 道	中国民用航空局计划司副司长
张优瑞	武汉市计划委员会副主任
宋仁浩	武汉市计划委员会副主任
刘天凯	武汉天河机场建设指挥部副指挥长
钱仁杰	民航广州管理局高级工程师
关有庆	武汉市计委交通处副处长
魏绮华	民航机场工程咨询公司副总工程师
刘美卿	武汉市规划局高级工程师
唐绍光	民航湖北省局高级工程师
朱丽春	中国民用航空局计划司经济师
武 伟	中国民用航空局国际司官员
余少蓉	翻译

日本側協議参加者名簿

作業監理委員会

委員長 亀 甲 邦 敏

委員 林 清 貴

国際協力事業団社会開発調査部社会開発調査第一課

職員 奈良輪 睦 美

国際協力事業団中華人民共和国事務所

所 長 田 口 定 則

副 所 長 松 谷 広 志

調査団

団 長 森 口 拓

団 員 堀 崎 広 義

団 員 菅 野 仁

団 員 青 柳 宏 平

団 員 吉 武 百 合

JICA
105
757
SSF
LIBRARY